



安全衛生情報たかやま

労働災害による死傷者数（10月末現在）

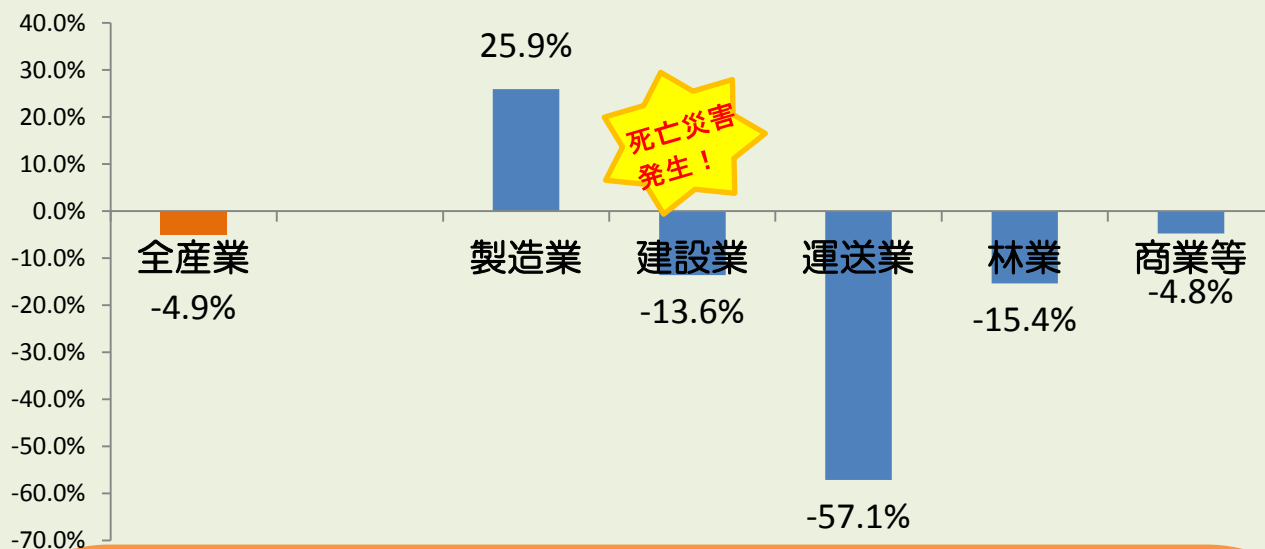
全産業

	平成28年	平成27年	対前年比 増減数	対前年比 増減率
死亡者数	1人	5人	-4人	-80.0%
死傷者数	116人	122人	-6人	-4.9%

主要業種の死傷者数（詳細は、別途死傷災害発生状況をご覧ください）

	平成28年	平成27年	対前年比 増減数	対前年比 死傷者増減率
製造業	34	(1) 27	-(1) 7	25.9%
建設業	(1) 19	(2) 22	-(1) -3	-13.6%
運送業	6	(1) 14	-(1) -8	-57.1%
林業	11	(1) 13	-(1) -2	-15.4%
商業等	40	42	-2	-4.8%

※労働者死傷病報告による休業4日以上死傷者数です。なお、（ ）は死亡者数で内数です。



〔最近の労働災害に関するコメント〕

全産業における労働災害は、前年同期に比べて6件（4.9%）減少しているものの、今年最初の死亡災害が1件発生しました。業種別に見ると、運送業が8件（57.1%）減と大幅に減少しています。しかしながら、製造業については7件（25.9%）増となっており、建設業は3件（13.6%）減となっているものの、死亡災害が1件発生しました。

災害事例

機械の修理作業中にはさまれる。

業種	水力発電所等建設工事業	災害の程度	死亡
事故の型	はさまれ・巻き込まれ	起因物	その他の建設機械等
災害発生状況		災害発生原因	
被災者が1人でボーリングマシンの油漏れ修理中、逆止弁の取付けネジを緩めたところ、ボーリングマシンの自重により油が抜けてボーリングマシンのガイドセルが下降し、ガイドセルとベース架台の間に頭部を挟まれた。		1 ボーリングマシンの修理作業を行う際に、自重での下降を防止する措置が行われていなかったこと。 2 労働者に、ボーリングマシンの油圧が抜けた際の危険性への認識が希薄だったこと。	
概略図		再発防止対策等	
		1 機械の修理作業を行う際には、機械の自重などにより動いた際の危険防止措置を行うこと。 2 労働者に対して、機械の修理作業の際の危険性についての教育を実施すること。	

※災害発生状況は同種災害防止の見地から編集を加えており、原因・対策は代表的な事項を記載しています。

おしらせ

当署管内で死亡災害発生！！

「非定常作業には危険がいっぱい」

上記の死亡災害は、機械の電源を切った状態で油圧シリンダーのゴムパッキンを交換する作業をしていたところ、機械の自重により油圧シリンダーが縮み、はさまれたものです。

機械の掃除、給油、検査、修理又は調整など非定常作業時には、通常作業時には無い危険が数多くあります。機械の通常操作には慣れていても、異常発生時の対応を誤って被災する事例が多く発生しています。

これから、除雪機などの冬季に使用する機械などの点検作業が増えてくると考えられます。

非定常作業を行う際には、適切な安全対策を実施しましょう。